

「地域での診断士活動のあり方」研究会

～キックオフにあたって～

＜みんなで創ろう、みんなのためになる研究会を＞

2006年

熊本の診断士研究会メンバー:10名

＜独立診断士＞

＜代表＞

* 本郷 誠 (元JA県信連)

＜メンバー＞

* 坂本純夫 (元JA経済連)

* 竹中啓親 (元ダイムラークライスラー)

＜事例提供者＞

* 横山耕二 (元ミツミ・平田機工)

＜メンター＞

* 山下康明 (診断協会支部長)

＜企業内診断士＞

＜会計・事務＞

* 堤 裕倫 (第一信金)

＜メンバー＞

* 河本龍二 (中央信金)

* 村橋誠一 (システムニシツウ)

* 小林武徳 (十八銀行)

* 井上照教 (野田一電子)

※金融、JA、製造、販売、IT
関係の診断士(社労士)が
メンバー

少数精鋭「地域診断士研究会」(横山塾)の基本

少集団活動への積極的参加により、各人が精鋭に成長していくことを目指す

＜対象受講者＞

各自の人生や社会活動の向上に意欲を持った独立診断士、企業内診断士

- ◆参加者数：10人以下(8人前後)
- ◆受講期間：4月～3月
- ◆参加費用：年額3千円
- ◆定期会合日時
第三土曜日PM1:30～4:30

定期研究会

月1回／全員参加(原則)
3時間(事例発表、質疑応答、意見交換)

★守秘義務に基づくホンネの交流

- ①人生の基礎を学ぶ
自己選択・自己決断・自己責任
- ②診断士の基礎を学ぶ
診断士活動精神、社会貢献活動
中小企業施策、顧客開拓など
- ③発言力、プレゼンテーション力の向上
繰返し全員実践の相乗効果で体得。

＜初回メンバー＞

代表：本郷 誠
事務：堤 裕倫
坂本純夫、竹中啓親
河本龍二、村橋誠一
井上照教、小林武徳
事例提供：横山 耕二
メンター：山下 康明

＜後援＞
(中小企業診断協会熊本)
＜ゲスト＞
県内外の第一線で活躍中の企業家、有識者

メーリングリスト

常時活用、全員参加

★少数による情報共有化

- ①相互理解の推進
- ②知識交換、意見交換
- ③自ら発信の体得

※視野を広げ、社会的活動の原点を学び「気付き」による意識改革を自らが行う。

※人脈の拡大と、異業種ネットワークづくりを行い、各自の改善・活性化につなげる。

※発言力、自己アピール力、プレゼンテーション力の向上を自らが実践・体得する。

ゲストとの会食懇談

都度開催：1～3ヶ月に1回
自由参加：自己負担(ゲスト分割勘)

★違った世界からの刺激と気付き

- ①視野を広げる(脱熊本思考)
- ②第三者の目を持つ(客観思考)
- ③人脈の拡大(新たな地域・分野)

「今からの診断士活動のあり方」研究会(合計12回+α)

6プレゼン×2=12回:先ず「1Hプレゼン/1H意見交換」、次回に「各自発表・意見交換」
定期会合:月1回、対象会員:当研究会に興味のある「企業内診断士+若手の独立診断士」

<研究会の目的>

- ①診断士の資格は社会活動の道具にすぎない。
独自社会活動を各自が見出すきっかけとする
- ②脱サラの事例に対する質疑応答や意見交換の中から、今後の独自活動のヒントを各自が得る
- ③中小企業政策のコア施策を実践事例の中から大局的に勉強する
- ④将来の各自活動テーマの研究・抽出のきっかけとし、合わせて会員間の相互連携の場とする
- ⑤地方における診断士活動の今後のあり方を模索し各自活動に活かす

<研究の事例提供(プレゼン内容)>

1. 簡単な自己紹介 : 考え方、活動の変化
49歳11ヶ月からの脱サラ人生の経緯
 2. 脱サラ・診断士受験～活動 : 平成7年～
山下先生、山本先生を目指して
 3. 県支援センターのPM活動 : 平成12年～
※中小企業基本法・支援法の発足
 4. JANBOのIM活動 : 平成14年～
新事業活動促進法(創業支援が重要)
 5. 機構の新連携PM活動 : 平成17年～
※中小企業新事業活動促進法の発足
 6. ライフワークと、今からやりたいこと
長期的社会活動の理念継承に向けて
- ※ゲストを交えた不定期会合(自由参加)
※メーリングリストの活用(常時交流)

人材育成(自分も育ち、相手も育つ)

企業は人なり:人材育成は時間がかかるもの

職務能力 :

- * 知識(専門、関連、基礎)
- * 技能
- * 体力
- * **精神的習熟能力**(理解力、思考力、企画・計画力、判断力、先見力、指導力など)
- * **取組み姿勢**(やる気、規律性、責任感、協調性、積極性など)

能力要素ごとの育成法(自己啓発、OJT、offJT)

- * 知識 :教える →集合教育でやり易い:形式知
- * 技能 :実行させる
- * 体力 :実行させる
- * **精神的習熟力** :考えさせる
- * **取組み姿勢** :都度の指導→集合教育では困難:暗黙知 →同行経験

ひとづくり → 今からは心構え教育の重要性が高い

- * 心構え教育 →気付き、全ての基本、変化への対応も可能
- * スキル教育 →「知る」と「できる」は違う、実践力の養成が必要
- * ハウツー教育 →「楽しんで得する」は教育ではない、変化の時代への対応不可

社会人教育と学生教育の違い

やりがいは「自己向上心」と「社会貢献意欲」から生じて、教育で育まれていく
自立過程： 問題意識なし→問題意識あり、当事者意識なし→当事者意識あり

＜社会人教育＞

自らの能力向上

一人前の社会人(自立)

自己選択・自己決断・自己責任

双方向の教育がメイン

教えあい、学びあう関係

多くの技術・知識・経験

「気づき」に重点あり

＜学生教育＞

自らの基礎力向上

半人前の社会人(依存)

依存的傾向

一方向の教育がメイン

教える、教わる関係

乏しい技術・知識・経験

「学習・習得」に重点あり

実務重視型の診断士制度

診断士の資格は社会活動デビューのツールに過ぎない

<診断士の役割>

今までも「中小企業行政と連動して、中小企業の診断・指導(高度化診断、設備貸与診断、専門家派遣など)や調査事業補助」を行うような位置づけからスタートし、中小企業支援法が成立した段階から「民間プロコン的な位置付け」となった。

しかし私は、以下の役割と考えており、現在、中小企業診断士のあり方が、中企庁でも再検討されているところ

- ①**本来の中小企業診断士業務** : 「施策の現場普及と、現場ニーズの行政フィードバック」+「診断指導の支援」(地域性:都市型と地域型、時代の変化への対応)
- ②**民間のプロコン** : 経営診断・指導、セミナー開催、講演、本の出版など
- ③**企業内診断士** : 経営陣への参画、経営企画業務、取引先への支援=自己研鑽

私は脱サラしたときに、会社の看板を外して、新たに社会活動(先ずは食べることを始めるために、何らかの資格が必要であると考えて、中小企業診断士(工鉱業)を取得することにした。

私は「横山耕二業づくり」の真最中である →最後まで未完成と考えている

※研究会メンバーが、各自の「****業」を創っていくきっかけにしてほしい
先ずは各自がデザインし、それを実現するための継続的な活動を開始すること

中小企業庁への施策提言を擬似経験

「地域資源を活かした地域活性化のための中小企業支援策」アイデア

※中企庁からの相談に関するアイデア収集・意見交換をやってみよう！

1. 地域資源を活用してビジネスのうち、成功しているケースにはどのような特徴が見られるか？

→新商品・サービス開発、地域商品の販売拡大、地域ブランド化など

2. また、良い資源を活用したビジネスに取り組んでいるもののあと一歩のところで販路開拓ができていない等伸び悩んでいるケースはどのような点がネックとなっているのか？

→資金面、マーケティングのノウハウなど

3. マーケティングを中心とした徹底的なハンズオン支援が重要と考えているが、具体的にどのような人材がどのようなサポートをするのが効果的か？

4. 「地域資源を有効に活用した地域活性化」について、成功の鍵になるのは、どのような取組みなのか？

→ 地域資源の質、事業構想への気づき、理念への共感、鍵となる企業（技術等）、キーマンの力量、マーケティング、地域のネットワーク、住民の組織化、行政の支援など

5. その他、具体的なアイデアがあるか？

中小企業庁・若手人材との会食懇談

「経営人材」「中小企業の若者確保」「診断士制度」への意見交換

1. **経営人材** : 経産省、中企庁を含め、国全体で人材対策の重要性が増している中で、中小企業が成長・発展する上で、技術人材も重要であるが、経営人材(イメージは、社長をサポートし、経理、営業、製造現場全体に目利きするような人材)が重要となってくることが想定される。こうした経営人材について、中小企業の必要性や現状はどのようになっているのか。現実問題として経営者は、どのように捉え、どのように育成しようと考えているのかなどなど、仮説を検証する。

2. **中小企業の若者確保** : 来年度から、「若者と中小企業とのネットワーク構築事業」というのを開始することになっている。委託費で、コーディネータ人件費を中心に支援をさせて頂く予定でして、従来各省で、思いはあるのにバラバラに行っていた採用支援の取組をうまくつないで、中小企業の若者確保支援を行う事業。

3. **診断士制度** : 実務重視型に制度を見直すとともに、新たに養成される診断士も、受験しようとする者に合わせた形で輩出されるような工夫をできればと思っている。

また、中小企業大学校での資格取得について民間の一次試験合格者に開放したり、勤務しながらの受講(夜間休日コース)等も検討事項である。

さらに、企業内でもその知識や能力を最大限に発揮し、顧客である中小企業に対する単なる物売りや融資(ちょっと言い過ぎかもしれませんが・・)の対象としてみるのではなく、より良いビジネスパートナーとなることが望まれると考える。

同構成の活動集団「地域診断士研究会」への参画者の感想

3月後半から少数(10名)の中小企業診断士による、全員参画型の自主的な同構成研究会を実践中！

【定期会合と全体的なこと】について

- * 型にはまった固苦しい勉強会ではなく、テーマも広く全員参画型がいい。
- * いろいろな人と交流ができ、「自ら発信」できるのがいい。
- * 今までにない刺激を受けて、いろいろなことを考えるようになってきた。
- * 人脈づくりを意識し始め、人付き合いのしかたも変わってきた。
- * 人との関わり合いの中で「自分探し」ができるのだと思うようになった。

【メーリングリスト】について

- * 今まで知らなかった多くのことをメールで見て、いろいろ幅広く考えるようになった。
- * メンバーが考えていることが分かり、いろいろな考え方があることが分かった。
- * メンバー間の仲間意識が間違いなく深まってきた。
- * しゃべるのが下手で、書くことが好きなので、メールで自分の意見を書くのが楽しい。
- * メーリングリストを初めて経験したが、使うたびにだんだん使い方が分かってきた。

【非定期会食懇談】について

- * 講演などと違い、リラックスした中で直接対話ができ身近に感じた。迫力も感じた。
- * 中から見る熊本と、外から見る熊本の違うことを、改めて知った。
- * 自分と違う世界の話の話を聞くことで、今までにない刺激を受けた。
- * 中企庁若手キャリアから、率直に内部事情も聞くことができ、非常に身近に感じた。
- * それぞれの立場での「ものの見方・考え方」があることが分かった。

会食懇談実施状況

3月後半から実施

- ①3月30日 : 中小企業庁経営支援課 長谷川氏との会食
- ②4月11日 : 中小企業基盤整備機構 中園氏との会食
- ③4月29日 : 東京電気通信大学 竹内客員教授との会食
- ④6月29日 : MICサービス 森田氏との会食懇談
- ⑤7月13日 : 日本立地センター梶川部長(JANBO事務局次長)